

もくじ

● 2～3 P

「超」危険な法律＝

「医療・介護総合確保法」

● 4～5 P

京都医労連60周年行事

東北支援ツアー

● 6～7 P

時には音楽

トークプラザ

ちょっとひと味



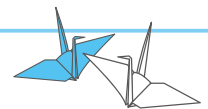
広島で平和への思いを新たに
原水爆禁止世界大会ー広島



2014年原水爆禁止世界大会が広島で8月4日～6日に開催されました。京都から53名が参加し、様々なテーマの学習、碑めぐり、軍事基地調査などの分科会で平和について学び交流し、被爆者から当時の体験を聞き、戦争のない世界、核兵器廃絶への思いをより強く持つことができました。医労連主催の産別交流会には青年を中心に100名の仲間が集まり、集团的自衛権の危険性を学び、夕食交流会では広島で感じたことを話し合い、交流を深めました。6日には平和祈念式典に出席し、慰霊碑に献花をおこない、みんなの思いのこもった折り鶴を平和記念公園に奉納しました。とても実りのある3日間で、今の生活は当たり前のもではなく、平和であるからこそ成り立っているのだということがよくわかりました。被爆の体験を語れるひとも少なくなっていますが、絶対に風化させてはならないし、語り継いでいかなければならない、そして戦争・核兵器は許さない。来年は原爆投下から70年。さらに多くの人に参加してほしいです。

感想

平和への第一歩



被爆者の方の生の声を聞く機会は、徐々に少なくなってきた。今回、広島での原水禁世界大会に参加をさせていただき、改めて原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを学んだ。そして被爆者の方の話を聞き、表情を見ていると当時の話をすることは、当事者の方にとって、どれほどの苦痛であるか、戦争時の体験がどれほどおぞましいものか計り知れないことであると感じた。そういった心境の中、話される言葉の重みはとても重く、この体験談を次世代に語り継いでいく義務を感じた。戦争体験は決して風化させてはならず、一人ひとりの心に刻みつけておかねばならないものである。核兵器や戦争が一時的になくなるのではなく、二度と起きないことが本当の平和であり、今回の原水禁への参加で本当の平和への第一歩を踏み出したのだと思う。

(京都民医労東支部 伊東 慶祐)

「超」危険な法律 ＝「医療・介護総合確保法」

みんなで学んで、大いに宣伝、みんなの力で廃止しましょう

2014年6月18日、集团的自衛権の問題で国会内外が大きな騒動になっている時、日本の医療や社会保障をさらに悪くする「医療・介護総合確保法」（以下、「総合改悪法」）が成立しました。この総合改悪法は、日本の医療や社会保障を根こそぎ悪くする法律の一つであり、一刻も早く廃止しなくてはならないものです。法律が成立して2ヶ月以上が過ぎました。改めて酷さを確認していきましょう。

この酷い法案は、
なぜ作られたか

総合改悪法は、2012年8月に消費税増税法とともに強行的に成立させられた社会保障制度改悪推進法が根源です。そして、この「改悪推進法」を根拠に、権利としての社会保障を否定した「国民会議報告書」が2013年にまとめられました。この報告書を受けて安倍首相は12月にプログラム法を成立させました。秘密保護法の影に隠れ、あまり報道されませんでした。このプログラム法により、2017年まで順次、悪法と悪政が具体化されることになりました。この第一弾である総合改悪法は、社会保障制度改悪推進法をベースにし、5年がかりで医療と介護を悪くする、かつてない悪法の先兵なのです。

「総合改悪法」などの法律の特徴

総合改悪法ならびにこれに関連する法律の特徴は、徹底した医療や介護の給付・サービスの抑制と患者・利用者負担の増大です。その思想は、権利としての社会保障ではなく、

2 看護師の特定行為、入院期間の短縮

看護師や介護福祉士などの「医療行為」の範囲を拡大させています。医師不足を口実とした看護師などへの医療行為の「委譲」は、誤った解決方向であり、安上がり医療提供体制の具体化でもありません。

また、平均在院日数の退縮が進んでおり、このことが職場の忙しさと燃え尽き状態を生み出しています。国は、「入院から在宅へ」「病院中心から、地域中心へ」と言い、2025年に見込まれる162万人の入院患者の2割を削減し、130万人にする計画となっています。

3 特別養護老人ホームの入所基準は要介護3以上

特養の利用は、原則要介護3以上としています。また、「介護の必要性は低い」とされた要支援者の訪問・通所介護が介護保険から外され、ボランテアなど利用などを前提とした市町村の事業になりました。これは介護保険がめざそうとしていた「介護の社会化」ではなく、「介護の自己責任化」に他なりません。

4 医療法人社団と医療法人財団の合併、持分なし医療法人への移行促進

総合改悪法では、社団たる医療法人と財団たる医療法人との合併を可能となりました。すでに国は、医療法人の統合をめざしており、

「お金を払っている人がサービスを受けられる」というものです。憲法25条で保障されている生存権という基本的人権の否定です。

そして、この総合改悪法は、19本もの法律案を一括したもので、医療と介護を一体的に改悪しようとしていることが特徴です。特に、医療・介護サービスを提供する病院や居宅支援事業所などの「改革」が重点となっています。

1 病床機能報告制度・地域医療ビジョン

病床機能報告制度は、それぞれの病院や診療所が、高度急性期、急性期、回復期、慢性期のいずれかの機能を有するかを都道府県知事に報告する制度で、今年の10月から開始されます。各病院・診療所は、現状の機能の報告と今後の方向、医師や看護師の配置、構造設備などを報告します。

これを受けて都道府県は、二次医療圏ごとの病床の必要量・地域医療ビジョンを策定することになっています。そして、知事はこのビジョンを実現するために、医療機関に病床削減の要請、命令を行い、さらに従わない医療機関名の公表などができます。

地域医療ビジョンが決まると、各医療圏ごとに病床の過剰数と不足数が決まります。国の目標の一つは、看護基準7・1のベッドを25%削減することです。地域医療ビジョンが決定されれば、強制力のある知事命令によって、機械的な病床削減も起こりかねず、早期退院などの医療難民が多数生まれる恐れもあります。

非営利ホールディングカンパニーの創設をめざしています。非営利ホールディングカンパニーとは、「持株会社」とも呼ばれ、複数の医療法人をグループとして統括するイメージです。国からは、施策を徹底させるために有効だと理解され、医療グループの巨大化をめざす方向が国民会議報告でも提案されています。しかし、国の政策をスムーズに進めるための巨大グループ化は、効率化優先の医療行政の推進を招きかねず、決して認められるものではありません。

まとめ

膨大な改悪推進法の一部を見てみましたが、この法律は、安倍内閣がすすめている「強い国をめざす」という政策の医療版に他なりません。この政治の先には、弱者切り捨て、効率と営利化の医療と介護が待っています。私たちは、そんな医療や介護をするために医療・介護労働者になったのではありません。患者や利用者のいのちと健康、生活を守るために、日夜、奮闘している私たち自身のために、この国が未来のある社会になるために、改悪推進法を廃止し、その根源である社会保障制度改悪推進法を廃止する運動を、すべての心ある人たちと手を結んで、すすめていくことが必要です。

MeSo 4

サンマのむら雲煮

大根おろしを入れて煮ることをむら雲煮、みぞれ煮といいます。



作り方

- ①サンマの頭と尾を切り落とし、1/2の筒切りにする。(内臓を抜いた方を上にして) 水道水で洗い、内臓を抜き、よく洗う。水をふきとり、塩少々、小麦粉をふりかける。
- ②しし唐がらしは竹串にさす。
- ③大根は皮をむいておろす。水分は軽く切っておく。
- ④葱・生姜はできるだけ細かく千切りに切っておく。
- ⑤サンマとしし唐がらしをカラッと揚げる。
- ⑥なべに調味料とだしを入れ煮立て、サンマを入れてひと煮立ちしたら、大根おろしを入れ、ふたたびひと煮立ちしたら器に盛る。
- ⑦葱・生姜を散らし、煮汁をかける。しし唐がらしを添える。(しし唐がらしのかわりに茄子を揚げても、サンマのかわりにサバ・イワシ・サワラでも美味です)

●材料(4人分)

サンマ	4尾
大根	200 g
しし唐がらし	8本
生姜	少々
葱	少々
小麦粉	少々
塩	少々
酒	大さじ1.5杯
醤油	大さじ2.5杯
砂糖	大さじ1杯
だし	1カップ (200cc)

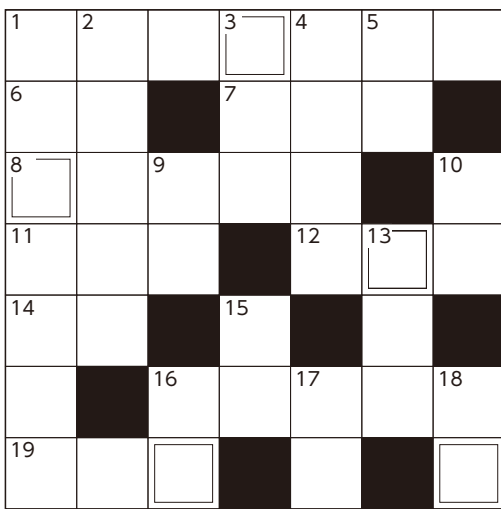
パズルコーナー □の5文字を1つの言葉(単語)にしてください。
*ヒント「全国観光地シリーズ」

パズルのこたえ

紙面についてのご感想・ご意見・職場の話題

氏名

組合名



177号の正解は「オソレザン」でした。
正解は以下の方に図書カードをお送りします。
柳瀬佳美(微生物研究所労組)、阪田美紀(個人加盟分会)、岡島直美(第一日赤職労)、重田洋子(第二日赤労組)、村岡敬子(第二日赤労組)

- ①別名スパイダーフラワー。
②スイッチが切られている状態。作動していない状態。
③未来において、損害や損失が発生する可能性があること。
④宇治金時・イチゴ・レインボーといえは何?
⑤檸檬より小さく酢橘より大きな果実。原産は、インドからマレーシア一帯の熱帯地域。
⑥眠たいときなどに不随意に起こる、大きく口を開けて深く息を吸う呼吸動作。
⑦類は、〇〇を呼ぶ。
⑧ALS(筋萎縮性側索硬化症)支援のために、頭からかぶるのは何?
⑨α線の衝突実験でベリリウム原子が炭素原子に転換することを発見したドイツの実験物理学者(1891-1957)。

送り先=〒604-8854 京都市中京区壬生
仙念町30-2 労働会館6F・京都医労連
FAX・Email可=075-811-6170
irouren@labor.or.jp
締切=10月31日消印有効(官製ハガキか、
FAX・メールで組合名も忘れずに)
発表=181号
賞品=正解者のうち抽選で5人の方に1,000
円分の図書カードをお送りします。

- ①成熱した雄は、胸から腹にかけて白い粉で覆われる。雌は黄色地に黒い斑紋がある。肉食性の飛翔昆虫。
②ポテトをゆでて汁気を切り、火にかけた鍋の中で転がして水分をとばして出来上がり。
③よく嘘を付く男性(若者言葉)。ピノキオをもじり、人名的にしたもの。
④カラフルでいきいきとしたパルセロナの台所。
⑤牛の舌部。脂肪含量が非常に高く、カロリーのほぼ75%が脂肪とか。
⑥テヘランの南方約135キロメートルに位置する。イスラム教シーア派の巡礼地。

- ⑦ベニシリンの製造やブルーチーズ・カマンベールチーズにも欠かせません。
⑧不飽和脂肪酸が多く含まれているため、動脈硬化の予防と血管の若さを保つことが話題の木の実。
⑨晴れた日の海や瑠璃のような色。
⑩手と前腕を防護する剣道具。
⑪スペイン語・ポルトガル語で「山」を意味する言葉。
⑫衣食住に対する欲望を払いのける修行。

時には音楽

京都の音楽喫茶あれこれ

京都の街には、何かと雰囲気がある音楽喫茶がたくさんある。ジャズ喫茶にクラシック喫茶、また、少し毛色は違うが、レッド・ツェッペリンを大音量で聞きたければ、あの店と言うように、色々な音楽ジャンルを楽しめる店がいくつもある。中にはこんな店もある。日本語の「これ」を意味するイタリア語を店の名前にしている、あるジャズ喫茶である。この店は、1985年に阪神タイガースがリーグ優勝した時、客からのリクエストを無視して、一晩中、「六甲おろし」を流し続けていたと言つ。こんな途方もない店があるからこそ、音楽喫茶は面白いし、自分だけの空間として、至福の二時を味わえるのである。

●名曲喫茶みゅーず 無くなってしまった「名曲喫茶みゅーず」と「ジャズ喫茶マンホール」

四條の高瀬川、阪急「河原町」駅北側入り口上るにあつた音楽喫茶である。店の創業は約60年前と聞いている。建物の作りがアルプスのチロル風の雰囲気がある2階建ての建物であつた。入り口から入ると正面奥の壁には、木製の帆船模型があり、2階に上がる階段を歩くと、靴の音がきしきしと響く、独特の雰囲気があつた。私は、1階奥のトイレの入り口北側にある1人がけイスにテーブルを挟んで南向きに座るのを常としていた。そして注文は、ミックスサンドイッチとハートランドビールがお決まりで、あわせて1,130円であつた。ビールを飲みながら音楽を聴き、写真週刊誌を見ながら過ごす一時は、本当にくつろいだ自分だけの時間であつた。そんなみゅーずだが、ある時店に行ってみると工事中であつた。その内、店が再開するものとばかり思っていたが、後日訪れてみると、クラシックとは何のゆかりもない、焼き肉屋にその姿を変えてしまつていた。焼

き肉を食べながら、クラシック音楽とはならんだらう。私は思わず絶句しうになつた。名曲喫茶みゅーずの跡地では、芳醇な焼き肉の香りが漂っている。名曲喫茶みゅーずは、今はもう無い。
●ジャズ喫茶マンホール
四條の大丸向かい側あたりのビル東側に、地下3階までつながっている通路があり、その地下2階に、ジャズ喫茶マンホールがあつた。縦向きのマンホールを横向きのマンホールにしたような雰囲気の店であつた。店内は薄暗く、店の奥にはステレオにアンプ、スピーカー、レコードやCDが並べてあつた。時代はレコードからCDに変わりはじめたころだつた。ソファに座ると、長髪の前掛けをつけた男性ウエーターが私の所に来て、小声で注文を聞いてきた。私もそれに応えて、押し殺した声で、「トマトジュース」と、一言。客は何も言わず、ただじつと押し黙って薄暗い店内で、ジャズを聞き入っていた。もちろん、私もその客の一人であつた。地下の穴蔵、薄暗い雰囲気、そしてジャズ、この雰囲気は私にはとても心地よく感じられて仕方なかった。薄暗い店から地上に上がると、そこは、5月の連休の明るい太陽の日差しが燦々と照りつけていた。所在がげに四條界隈を歩く私には、この日差しがまぶしすぎた。ジャズ喫茶マンホールは、今はもう無い。(川上裕光)

トークプラザ



通勤の途中で沈丁花の花をみつけました。雲の中でみた花は、不思議と凜として、毎日の生活を応援してくれているみたいです。MeSo毎号楽しみにしています。頑張ってくださいね。
田中 貴子(京都第二赤十字病院労働組合)



バス定期路線の旅おもしろかったです。私の今年の目標の一つは、一人旅することです。佐田岬半島から長崎へ行ってみたいです。
重田 洋子(京都第二赤十字病院労働組合)



日本一長い路線バスは私の故郷・和歌山を通ります。なつかしいです…♥
ともすれば今の現実から逃げ出したくなるけれど、どんなに時間がかかっても、必ず目的地に着くと信じて…頑張るしかないですね。
大藪 志保(京都民医労洛南支部)



佐久医療センター ノーリフト見学会を実施しました。



8月8日(金)～9日(土)に長野県佐久市にある佐久医療センター見学会を実施しました。佐久医療センターは全国で初めて急性期病院で150台のリフト導入した病院です。今回は19年ぶりに昨年見直された「腰痛予防対策指針」を職場で活かして、医療・看護・介護を良くしていくために企画されました。現地では佐久総合病院労働組合の鷹野委員長から組合の取り組みや、テクノエイド支援室の花澤室長から佐久医療センターで実践されているノーリフトの取り組みを学んで大変勉強になった見学会でした。

創刊から30年、MeSoの更なる発展に期待

「医療のなかま」が創刊されたのは、1984年1月、それからその15年後1999年の1月から名称を「MeSo」にあらためました。医療だけではなく、福祉で働くなかも対象にした機関紙という意味で、「Medical Care & Social Welfare」の頭文字をとったものです。従来のB5判8PのスタイルをA4判8Pに変更し、紙面をリニューアルしました。今年で30年目というわけなんです(ねー!!) (この原稿を書きながらびっくり)

当初から編集委員に加わりましたが、機関紙をもっと読みやすく、組合員目線で作りたいたの思いで関わらせていただきました。しばらくして、編集責任者になり、「編集委員自身が楽しく」をモットーに、委員会終了後の一杯も楽しみの一つでした。何度か編集旅行も敢行しました。いつも編集委員の興味のあるものを中心に、時々課題とマッチングさせながら、でもほとんど楽しさ優先で編集にあたらせてもらいました。(編集委員が楽しかったら、きっとその楽しさは紙面から伝わるものと信じて)テーマが決まらないときは、お決まりの一杯でだべりながら…。

身体を壊して、委員を退くことになりましたが、ニュースのつづりを、見返すと楽しい思い出ばかりです。今後も「MeSo」に、そんな思いで編集委員が多く携わり名実ともに医療と福祉の働くなかまの機関紙として、「MeSo」会館が建つような時代を夢見て、発展することを期待し、退職後もHPから閲覧させていただきたいと思っています。

全医労京都地区協議会 村上 隆彦

編・集・部・だ・よ・り

前回MeSoに掲載した「日本一長い路線バス」の記事に好評のお声を頂きました。気を良くした編集部が第2弾として「日本一長い定期普通列車」を企画しました。しかし、この列車が走っているのは北海道！滝川から釧路までを8時間かけて走ります。この企画、大変面白い記事になると思いますが、時間と予算の関係でボツになりました。残念！読者の方で時間とお金に余裕のある方は是非乗ってみてください。勿論記事にして頂けるとMeSoに掲載いたします。

(K)

おまかせしました！今年の日帰り旅行は

花と文化に親しむ淡路島の旅

〈日 時〉10月25日(土)

京都駅八条口午前7時30分集合(7時45分出発)

〈参加費〉5,600円(お子様ランチの昼食の場合は4,000円)
バス席不要・食事不要の場合は無料です

〈定 員〉45名

〈申し込み〉9月16日(火)～10月15日(水)

※10月20日以降のキャンセルはキャンセル料が発生します

主催 京都医労連女性委員会 ☎075-801-8002